

RPPC メールマガジン 第 889 号

リサイクルポート推進協議会（令和 3 年 9 月 15 日）

■先週・今週の事務局からのお知らせ

1) 第 2 回 広報部会

日 時：9 月 16 日（木）16:00～

開催方法：オンライン（Zoom）

場 所：みなと総合研究財団 3 階

2) NPO 法人山形県リサイクルポート情報センターのメルマガを添付しました。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 港湾局重要港湾主幹課長会議開催、予算・重点施策の方向性示す

国土交通省港湾局は 9 月 9 日、令和 3 年度第 1 回「重要港湾管理者等主管課長会議」をオンラインで開催した。開催にあたって浅輪宇充港湾局長が、我が国港湾を取り巻く大きな環境変化も踏まえた令和 4 年度予算概算要求での重点施策などを紹介するとともに、重要施策について各課の担当者が主要な取り組みの報告や要請事項などを説明した。

開会にあたり浅輪局長が、「先月末、令和 4 年度予算概算要求書を財務省に提出させていただいた。同予算要求では社会経済活動の着実な回復と経済の好循環の加速、拡大、並びに国民の安全安心の確保、豊かで活力ある分散型の地域づくり・国土づくりが柱になっている。特にグリーン（カーボンニュートラル）、デジタル、地方の活性化を新たな成長推進枠として予算を重点投資することとしている。また、防災・減災、国土強靱化 5 箇年加速化対策については、事項要求として予算編成の過程で協議を進めていく」と挨拶した。

2. 静岡県に清水港の産直港湾計画で認定書を交付

清水港で産地と港湾が連携して農産物等の輸出促進を図る取り組みがスタートした。「特定農林水産物・食品輸出促進港湾（通称・産直港湾）」制度の活用により、輸出産地による海外への直航サービスを支援する。静岡県が策定した「産地・港湾連携型

農林水産物・食品輸出促進計画（連携計画）」を国土交通省と農林水産省が認定し、9月2日に県庁で認定書授与式が行われた。授与式では認定者として浅輪国交省港湾局長、渡邊農林水産省輸出・国際局長から挨拶があったほか（リモート参加）、早川佑介清水港湾事務所長が難波喬司静岡県副知事に認定書を交付した。

「食料・農業・農村基本計画」（令和2年3月31日閣議決定）等において、農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円とする目標が設定されたことを踏まえ、国土交通省では農林水産省と連携し、令和3年度から「産地・港湾が連携した農林水産物・食品のさらなる輸出促進事業」を開始している。

3.衣浦港 水深12m岸壁、臨港道＝技術検討業務を実施へ

中部地方整備局三河港湾事務所は衣浦港外港地区国際物流ターミナルに係る技術検討業務を実施する。港湾計画に位置付けている水深12m延長280mの係留施設、並びに同埋立地と碧南側を結ぶ臨港道路について、施工法や整備手法等を検討する。

外港地区ポートアイランドではこれまでに浚渫土砂等による土地造成も進んできている。水深10m岸壁と水深12m岸壁が位置付けられており、当面は需要の高い水深12mの国際物流ターミナルの整備を検討する。また同バースは耐震強化岸壁としての計画になっており、大規模震災時の緊急物資等供給バースとしての期待がある。

水深12m係留施設は別途、名古屋港湾空港技術調査事務所において基本設計案が進むことになっており、三河港湾事務所では同検討結果も踏まえて施工手順や各工種の施工法、全体工程計画、概算工事費の産出などを行う。

係留施設は過年度に概略検討を実施し、コスト比較などから控え矢板式などが提案された経緯がある。今回の三河港湾の技術検討ではそうしたデータも参考にしつつ、総合的な視点で検討を行う予定。

またポートアイランドと碧南側を結ぶ臨港道路の検討では、概略構造形式を検討する。異なる3案を対象にその概略をとりまとめ、整備手法を提案してもらう。

埋立地と碧南側とは水域間で概ね300m程度あり、現在は1車線幅の工事用連絡道路がある。臨港道路に係る検討では同既設道路の活用も含め、概算数量、概算工事費、施工性などを比較検討する。

4.北九州港響灘東地区基地港湾、5年度供用へこれから岸壁本体工に

九州地方整備局北九州港湾・空港整備事務所が事業中の北九州港響灘東地区洋上風力基地建設では現在、既設ケーソン護岸の撤去等の工事が行われており撤去が終わり次

第、鋼管杭式による栈橋築造工事が始まる。栈橋が整うとその後は別件で岸壁背後の埋め戻しや直轄担当区間の地盤改良、また岸壁前面の海底地盤の強化・整地などを行い、令和5年度末の整備完了に向け工事を進めていく。また今年度に発注を予定していた岸壁との取付部工（鋼管矢板）並びに岸壁背後の埋戻し工事は来年度発注に変更している。

整備中の岸壁本体の築造が終わると、その後は上記の取付部築造や岸壁背後の埋め戻し工、また岸壁から100m区間を対象とするふ頭用地の地耐力確保に向けた地盤改良工事などを進めることになっている。

またSEPへの積出し岸壁では海底地盤強化のため雑石による地盤置換工事等も実施し5年度中の岸壁完成～供用へと進めていく。

5.清水港、県の産直港湾計画に認定書を交付

清水港で産地と港湾が連携して農産物等の輸出促進を図る取組みがスタートした。「特定農林水産物・食品輸出促進港湾（通称・産直港湾）」制度の活用により、輸出産地による海外への直航サービスを支援する。静岡県が策定した「産地・港湾連携型農林水産物・食品輸出促進計画（連携計画）」を国土交通省と農林水産省が認定し、9月2日に県庁で認定書授与式が行われた。授与式では認定者として浅輪国交省港湾局長、渡邊農林水産省輸出・国際局長から挨拶があったほか（リモート参加）、早川佑介清水港湾事務所長が難波喬司静岡県副知事に認定書を交付した。

「食料・農業・農村基本計画」（令和2年3月31日閣議決定）等において、農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円とする目標が設定されたことを踏まえ、国土交通省では農林水産省と連携し、令和3年度から「産地・港湾が連携した農林水産物・食品のさらなる輸出促進事業」を開始している。

6.2020年コンテナ取扱貨物量（港湾局速報値）2,166万TEU（前年比7.3%減）

国土交通省港湾局は全国港湾管理者の情報提供を元に、わが国港湾における2020年のコンテナ取扱貨物量（速報値）をまとめて公表した。全国合計取扱貨物量は2165万TEU（20フィート換算）で、前年比7.3%減。

このうち外貿コンテナは1739万TEUで全国では前年度比で7.7%減少したが、全国港湾の約8割を占める3大湾の港湾（東京港、川崎港、横浜港、名古屋港、四日市港、大阪港、神戸港）の合計では対前年度比3.4%の伸びを示し、回復基調にあるとしている。

※新たに導入した PC とメーラーの環境では、添付ファイルが「***.dat」となったり、不要な添付ファイルが付く場合があります。受信ファイルに不具合がある場合は、気兼ねなくその旨ご指摘ください

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////